

# 銅 概 況

大阪市中央区玉造 2 丁目 28 番 10 号  
加藤金属興業株式会社

## ◎ 平成 31 年 1 月の国内電気銅建値は下記の通りです。

1 月	7 日	～	690 円/Kg
1 月	11 日	～	680 円/Kg
1 月	17 日	～	690 円/Kg
1 月	28 日	～	710 円/kg

平成 31 年 1 月度は平均で 692.70 円/kg となり、前月比 34.60 円/kg の値下がりとなりました。

### 海外銅価の動き

1 月の LME 銅相場	1/2～ 1/30 (安値ドル 5,811.00～6,077.00 高値ドル)
1 月の NYC 銅相場	1/2～ 1/30 (安値セント 257.05～277.30 高値セント)

1 月度の LME 現物は、1/2 \$5,839.00 でスタート。一部で銅相場は需給状況の逼迫を背景に 2019 年は春以降平均 \$6,400 で推移し、年末には \$7,000 まで上昇するとの予想も出た。中国も景気浮揚策の一環として国内消費拡大のため自動車や家電の消費促進策を講じるなどの発言もあった。しかしながら、結果としては中国の経済減速が相場を低迷させる形となった。21 日、中国国家统计局が発表した昨年の GDP は、米中の貿易摩擦激化で投資意欲が削がれたことや消費者の信頼感を失う出来事が頻発したことから、前年比 6.6% 増に留まり 28 年ぶりの低い伸び率になった。その後も米中の関係には依然距離があるとの見方が強く、\$6,000 をほぼ超えないポジションでの推移となった。

銅需給バランス…Brook Hunt 情報 2018 年 10 月 資料より (単位/千トン)

	2017年 実績	2018年 実績	前年比	2019年 予想	前年比	2020年 予想	前年比
全世界地金生産	23,078	23,491	+1.8%	23,998	+2.2%	24,917	+1.9%
全世界地金消費	23,136	23,703	+2.5%	24,234	+2.2%	24,665	+1.5%
全世界需給バランス	-58	-211		-236		-202	

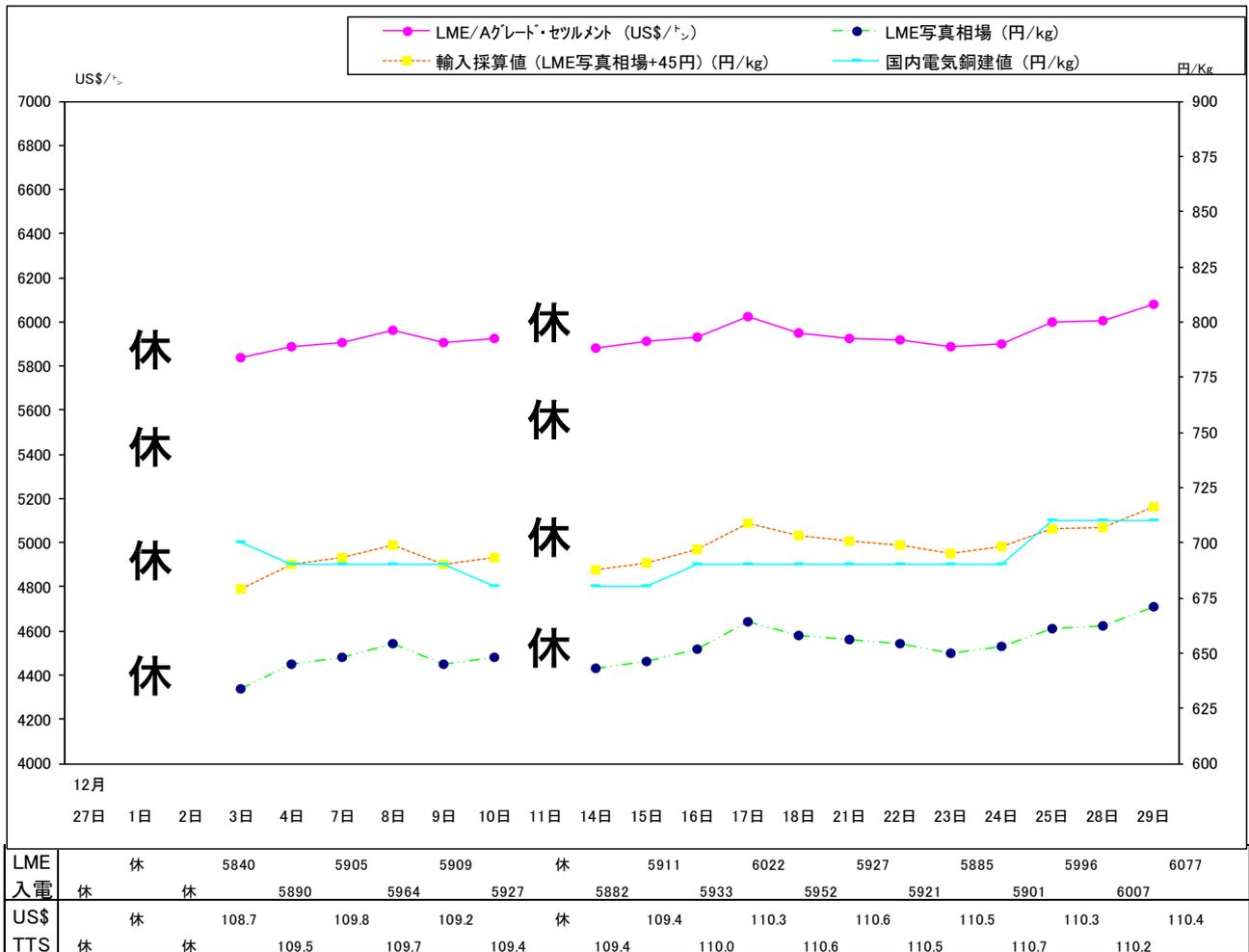
### 先行き短期見通

#### 国内銅価

1 月度の国内建値は 7 日 690 円/kg でスタート。LME としては非常に動きが小さく、政治・経済状況についてもやはり米中経済摩擦による影響が大きい状況の中での銅相場となった。1 月の前半は昨年末よりやや円高が進み、11 日 680 円/kg に下げる。しかし、月末には F R B の金融正常化が緩和的になり、追加利上げの観測が後退したことなども相場を押し上げる要素となり、29 日、30 日と連続して \$6,000 を超える形となった。17 日 690 円、28 日 710 円と国内建値は上昇し 1 月を終えた。

1/30 付 LME \$6,077.00、30 日付 為替 (TTS) 1USD=110.43 円で日本円換算計算値 671 円/kg。2019 年 2 月の国内電気銅建値のスタートは、以降変化のない限りでは、710 円の予想です。

◎ LME相場推移及び国内電気銅建値推移



◎ 平成31年1月の国内亜鉛建値は下記の通りです。

- 1月 7日 ~ 322 円/kg
- 1月 11日 ~ 316 円/kg
- 1月 17日 ~ 322 円/kg
- 1月 22日 ~ 334 円/kg
- 1月 28日 ~ 346 円/kg

平均329.00円/kg

平成31年1月は上記の通りで前月比 16.10円/kgの値下げとなりました。

これはLME亜鉛相場の下落で引き下げられたもの

◎ その他の建値

電気鉛	1月	278.00	円/kg	(前月比-	8.00	円/kg)
電気錫(相対)	1月	3,610.00	円/kg	(前月比+	30.00	円/kg)
ニッケル(溶解用)	1月市中価格	1,400.00	円/kg	~ 1,450.00	円/kg	
銀	12月平均	54,320.00	円/kg	(前月比+	570.00	円/kg)
	1月31日	57,510.00	円/kg			
金	12月平均	4,538.72	円/g	(前月比+	64.24	円/g)
	1月31日	4,646.00	円/g			

◎ 伸銅品関係

平成30年12月の伸銅品・品種別生産速報(全国ベース)

		11月度実績	12月度速報	前月比	前年12月度実績	前年同月比
銅	板	1,560	1,330	-14.7%	1,217	9.3%
	条	24,199	21,552	-10.9%	22,153	-2.7%
	管	9,774	9,167	-6.2%	9,047	1.3%
	棒	2,344	2,229	-4.9%	2,161	3.1%
	線	263	305	16.0%	286	6.6%
黄銅	板	593	565	-4.7%	533	6.0%
	条	9,328	8,842	-5.2%	8,782	0.7%
	管	541	522	-3.5%	612	-14.7%
	棒	16,595	15,260	-8.0%	15,045	1.4%
	線	2,741	2,471	-9.9%	2,319	6.6%
青銅	板	2,411	2,334	-3.2%	2,743	-14.9%
	条					
	棒	250	242	-3.2%	249	-2.8%
	線	64	71	10.9%	64	10.9%
洋白・その他	板	525	494	-5.9%	501	-1.4%
	条					
	棒	42	30	-28.6%	41	-26.8%
	線	419	418	-0.2%	464	-9.9%
合計		71,649	65,832	-8.1%	66,217	-0.6%

12月の伸銅品生産速報は、65,832トンで前月比マイナス5,817トン、前年同月比-0.6%となり、前年同月比が2ヶ月ぶりにマイナスとなりました。

## 電 線 関 係

電線工業会がまとめた銅電線主要7部門別出荷数量の10月分実績及び11月分推定によれば、10月分の総計は6万4千409tで前年同月比2.8%増加し、再び前年を上回った。この数値は14年の10月以来4年振りの高アベレージ。主力の建販が3万1千600万tと14年10月以来の高い数値となり、ようやく電設ルートを軸に動き出したうえ、自動車やその他内需も好調だった。建販と総計は連動しており、18年4月以降、同9月を除けば傾向的には上向き調子にある。

一方、11月の銅電線ケーブルの出荷推定では、建販が3万900tで同3.1%増と好調を維持し、10月と同様の傾向を続け、総計は6万4千200tで同2.8%増と6万t台を維持する見通し。また、10月分の部門別出荷量をみると、プラスグループは通信、自動車、建販、その他内需の4部門となった。通信は9月まで続いた需要の谷間から脱し、久々に1千tを上回り同5.5%増加。携帯基地局用の同軸ケーブルも好調だ。自動車も自然災害の影響から抜け出し、同6.5%増と好調。建設電販も材料調達の正常化や五輪の施設、首都圏の再開発需要にエンジンがかかり、同6.7%増加し、14年10月以来の高水準に。11月も再開発が動き3万tを超える見込。

マイナスグループは電力、電気機械、輸出の3部門。電力ははまだ台風や材料調達の影響が残り、同0.1%の微減、電気機械は、巻線らは好調もFA・ロボットケーブルが不調で0.4%減。輸出は電力などが鈍化したこともあり、同48.9%減と半減した。

### 2018年10月分(実績)・2018年11月分(推定)主要部門別出荷

部門	数 量						金 額		
	10月実績 (t)	対前月 比(%)	対前年同 月比(%)	11月推定 (t)	対前月 比(%)	対前年同 月比(%)	10月実績 (百万円)	対前月 比(%)	対前年同 月比(%)
通 信	1,039	21.8	5.5	900	▼13.4	3.8	1,689	(20.6)	0.8
電力	(1,551)	(▼23.0)	(2.9)	(1,600)	(3.2)	(30.7)	1,232	(▼18.9)	(3.2)
	4,578	5.4	▼0.1	4,500	▼1.7	▼5.8	5,505	4.1	10.0
電気機械	(481)	(20.6)	(6.7)				466	(19.2)	(10.2)
	13,227	12.1	▼0.4	12,900	▼2.5	▼2.7	18,178	9.2	3.2
自動車	(101)	(21.7)	(2.0)				406	(19.8)	(▼2.6)
	7,820	12.8	6.5	8,300	6.1	17.4	35,968	12.5	11.1
建設・電販	(10)	(▼60.0)	(▼87.3)				12	(▼47.8)	(▼81.2)
	31,646	17.3	6.7	30,900	▼2.4	3.1	36,803	18.4	7.6
その他内需	(99)	(35.6)	(130.2)	(600)	(▼13.2)	(▼6.2)	85	(34.9)	(107.3)
	4,912	14.7	9.6	4,400	▼10.4	▼3.3	8,344	21.2	19.6
内需計	(2,242)	(▼13.6)	(2.8)	(2,200)	(▼1.9)	(18.0)	2,201	(▼5.7)	(2.9)
	63,222	14.6	4.8	61,900	▼2.1	2.3	106,488	14.2	8.8
輸出	(4)	(▼98.9)	(300.0)	(300)	(7400.0)	(2.7)	14	(▼83.7)	(75.0)
	1,187	▼31.4	▼48.9	2,300	93.8	19.5	5,969	3.3	▼8.0
合計	(2,246)	(▼23.7)	(3.0)	(2,500)	(11.3)	(16.0)	2,216	(▼8.4)	(3.2)
	64,409	13.2	2.8	64,200	▼0.3	2.8	112,457	13.5	7.8
心線販売	(1,256)	(▼8.5)	(25.3)	(1,500)	(19.4)	(18.6)	349	(▼9.1)	(31.7)
	33,846	14.0	6.6	33,300	▼1.6	2.6	24,201	14.7	2.0

(注) ( )内はアルミ線を示し外数。ただし推定欄のアルミ線は電力、輸出部門以外は「その他内需部門」に一括計上。▼はマイナス。  
金額は四捨五入の為計が合わない場合がある。

### 2018年10月分品種別出荷 単位:銅量:トン アルミ量:トン 金額:百万円

品 種	数量	対前月比 (%)	対前年 同月比	金額	対前月比 (%)	対前年 同月比
裸線	3,906	16.6	▼12.1	3,737	18.8	▼3.8
巻線	12,441	13.5	2.8	13,544	12.4	11.8
機器用電線	3,882	13.7	2.7	10,939	9.6	1.6
通信用電線・ケーブル	1,632	17.4	▼3.8	3,696	17.8	0.1
電力用電線・ケーブル	23,149	7.9	2.5	24,876	9.7	7.4
被覆線	13,068	22.0	7.8	18,148	21.1	8.7
輸送用電線	6,331	12.3	7.3	37,516	13.4	10.2
銅電線計	64,409	13.2	2.8	112,457	13.5	7.8
EM電線・ ケーブル	82	26.2	9.3	279	23.5	9.0
	3,171	8.2	4.8	3,786	12.0	6.3
計	3,260	8.6	4.9	4,108	12.7	7.0
アルミ電線計	2,246	▼23.7	3.0	2,216	▼8.4	3.2
光製品	4,784,760	13.4	15.0	23,940	8.7	11.0
うち、光ファイバーケーブルコード	-	-	-	4,940	7.0	14.2

(注) 1. EM電線・ケーブルはJCS規格17品種が対象であり、機器用、消防用等のノンハロタイプは含まれない

(注) 2. 四捨五入の為計が合わない場合がある。

(注) 3. 光製品の数量はkmc

(注) 4. ▼はマイナス

◎ アルミニウム関係

- 国際アルミニウム地金相場のお正月明け第2週は、好調な米国雇用統計の結果を受け、米国株価が大きく上昇する中、アルミ相場も同調し、一時\$ 1, 880まで上昇。米中貿易摩擦に加え、中国の12月生産者物価指数、消費者物価指数は、前年同月から大幅鈍化を示す結果となるなど同国の経済減速を示す結果となるなど先行き不透明感の中でスタートする。第3週、中国の12月貿易統計は輸出・輸入ともに前年比で減少となり同国の経済減速懸念からメタル相場の上値は相変わらず重い。アルミ独自の材料として米国のロシア制裁解除があるが、米国上院での制裁解除の否決に必要な60票が得られず、引き続き解除報道の続報が待たれる状況。第4週、中国のアルミ生産量2018年通年で3,580万MTと過去最高であった。一方、マレーシアで3万5千MT以上のキャンセルワラントが発生。さらに9万MT、5.5万MTと累計で18万MT以上に及ぶキャンセルワラントが発生。出荷予定のない在庫は、84.9万MTまで減少と下支え要因もあり\$ 1, 890がサポートラインと展開。最終週、米国のRUSALへの制裁が正式に解除されたが、すでに折込済みとの見方もあり、大きな変動も見られず、米中通商協議、FOMC、英国離脱代替案の審議等があり、予断を許さない状況ではあるが、当面は\$ 1, 900を中心にした展開の予想。

○ 対日オファー及び国内価格

- ・対日オファー（CIF） 2019年 1月積 2,029.00~2,039.00 ドル/トン
- ・輸入採算価格 2019年 1月積 237.00~238.10 円/kg
- ・NSP 2018年11月 277.10 円/kg
- ・NSP（メーカー対応価格） 2019年1月~3月 290.00 円/kg

○ IAI統計アルミニウム新地金生産高（単位=千トン）

	'18年11月	'18年12月	'17年12月
月生産	*2,285.0	2,358.0	2,357.0
平均日産	*76.2	76.1	76.6

(\*＝訂正有り) 中国は対象外にしております。

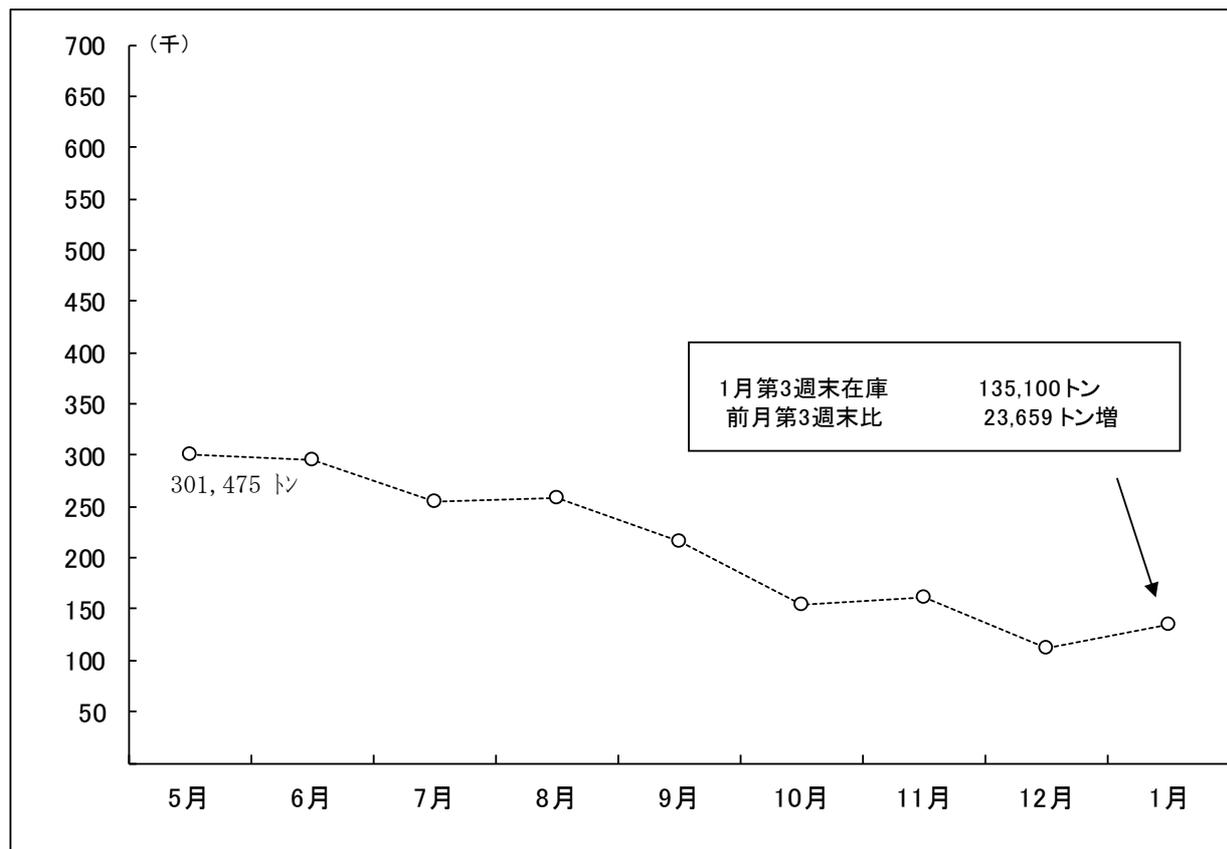
○ アルミインゴット港湾在庫

(単位：トン)

	2018年9月	2018年10月	増減	2017年10月	増減
横浜	158,500	155,500	-3,000	119,100	+36,400
名古屋	144,700	146,800	+2,100	105,600	+41,200
大阪	15,000	15,000	±0	15,000	±0
合計	318,200	317,300	-900	239,700	+77,600

上記アルミインゴット港湾在庫に変更致しました。(2015年1月分からの変更です)

◎ LME銅在庫 (各月第3週末参考)



◎ COMEX在庫 (第3週末)

・ 31年1月18日現在 96,212 S T 前月比 33,513 S T 減

◎ 国内山元電気銅在庫

・ 30年11月末 78,960 トン 前月比 17,521 トン減

◎ 伸銅品生産実績

・ 30年11月確報 71,649 トン  
 ・ 30年12月速報 65,832 トン 前月比 91.9 %

◎ 電線出荷実績

・ 30年12月速報 56,700 トン 前月比 88.3 %

◎ 軽圧品生産実績

・ 30年 12月	板 類	94,625 トン	
	押 出 類	65,319 トン	
		<hr/>	
		159,944 トン	前月比 92.2 %

以上簡単ですが銅概況、他のご報告申し上げます。